

令和2年度 市民協働「熊谷の力」事業
『在宅の身体障害児とその家族の生活に関するアンケート調査』

報告書

令和3（2021）年3月
特定非営利活動法人 NPO にじいろ
熊谷市福祉部障害福祉課

目次

はじめに	1
調査概要	2
調査結果	3
【ご本人について】	4
【家族・介護者について】	4 8
【福祉サービス等について】	6 8
【日常生活について】	1 0 8
【防災・災害時対策について】	1 2 3
付録・家族手記	
しあわせのかたち1 「はじめての子育て」	1 3 9
しあわせのかたち2 「生きてるだけで丸儲け」	1 4 1
しあわせのかたち3 「新都心より愛を叫ぶ」	1 4 3

はじめに

私たち「特定非営利活動法人NPOにじいろ」は、熊谷市を拠点に「重症心身障害児家族の会」として、重症心身障害児者とその家族が住み慣れた地域で将来に渡り安心安全に暮らせる環境を創造することで福祉の増進に寄与することを目的に活動して参りました。

この度、令和元年度 熊谷市市民協働提案制度 市民協働「熊谷の力」事業として採択された「在宅の身体障害児とその家族の生活に関するアンケート調査」（令和2年度実施）を熊谷市福祉部障害福祉課との協働により実施致しました。

本調査は、身体障害児0～18歳（令和2年4月1日現在）のいる家庭から日頃の状況やご意見等をお伺いし、ご本人やご家族が感じている生活上の困難の軽減と解消に向けてご協力をお願い致しました。

「子育て」「介護」「医療」が混在する障害児の育ちは、育児書には載っていない手探りの連続です。我が子の病気や障害のことを十分に知らないまま、大きな『不安』を抱えて家族の“障害児育児”は始まります。医療技術の進歩により、以前では守れなかった多くの命を救えるようになりました。救えた命をどう守るか「子育て」「介護」「医療」すべてのケアを家族だけで抱え込むことは、いずれ限界がやってきます。

障害児支援は、「子ども・子育て支援」「障害福祉」だけではなく、さまざまな領域との連携が不可欠であり、「きょうだい（児）支援」「親支援」等を含めた家族支援が、障害児支援であると考えています。

今まで、身体障害児（肢体不自由（以下、肢体））の育ちは地域社会には伝わりにくく、身体障害児（肢体）の成長に伴い表面化する生活上の困難が見落とされてきたと感じています。地域社会が知る機会の限られていた在宅の身体障害児（肢体）の生活に関する実態を明らかにし、ライフステージ毎に変化する課題やニーズを行政機関や地域福祉に携わる専門職、市民のみなさまと共有するための機会を創り、既存の社会資源や仕組みの有効活用と新たな社会資源の創出のため、本報告書が一助となるよう切に願っております。

特定非営利活動法人 NPO にじいろ

代表理事 牛頭 智子

調査概要

1. 目的

この調査は、在宅の身体障害児（肢体不自由児）のいるご家庭から日頃の状況やご意見等を伺い、ご本人やご家族の生活上の困難と必要な支援を把握し、調査の集計分析の結果を行政機関や地域福祉に携わる専門職および市民に向け、在宅の身体障害児（肢体不自由児）とその家族の生活に関する課題・ニーズを共有するための資料とする。

2. 調査期間

令和2年7月18日～令和2年8月17日

3. 調査対象

- ・市内在住の身体障害児（肢体不自由児）のいる家庭
- ・令和2年4月1日現在、0～18歳までの身体障害者手帳（肢体）を交付されている児童

4. 調査方法

調査票を対象者に郵送にて配布、同封の封筒で郵送により回収

5. 調査項目

調査の内容は次の項目により構成した。

【ご本人について】

【家族・介護者について】

【福祉サービス等について】

【日常生活について】

【防災・災害時対策について】

6. 回収状況

配布・回収状況は次の通りである。

配布数 A	回収数 B	回収率 B/A	有効回答数 C	有効回答率 C/A
75件	46件	61.3%	46件	61.3%

7. その他

- ・調査結果は百分率で表示した。百分率は小数第2位を四捨五入し算出したため、合計値が100%を超える場合がある。
- ・一人の回答者が複数回答できる設問の百分率の合計値は、100%を超える場合がある。
- ・二重回答や判読不能の回答などは、無回答に含める。
- ・図表中の「n」は対象回答者総数を示す。